

平成29年度わどまり未来予想図プロジェクト
外部評価結果

平成30年8月

和泊町総合戦略外部審議会

基本的方向	本事業における重要業績評価指標 (KPI)				実績・評価		1 あ っ た 有 効 で	2 か っ た 有 効 で な	外部審議会からの意見		
	基本目標及び施策	指標	基準値 (26)	単位	目標値 (H31)	実績値 (29)				事業評価	
										1 有効であった	2 有効でなかった
1 地方における安定した雇用を創出する											
【基本目標】 地域資源をフル活用し、安定したしごとづくりを目指します。	農産物販売額	55.6	億円	60	1	7	2	<ul style="list-style-type: none"> 雇用の創出は一朝一夕にできるものではないと思うので、様々な事業の効果を検証しながら、継続していくべきだと思います。 生産者をグループ化し、話し合い活動計画を立て生産向上に向けた取組が必要。 新規雇用については現在行っている事業の進捗によって増えてくると思う。 評価つけがたい これから先がわからないのと自分の勉強不足 KPIの「農産物生産額」は気象問題、相場価格に左右されるため当施策の指標としては不向きかと考えますが、達成率100%超につき「1」としてあります。 達成率低調、「テレワーク等の新たなしごとづくり」の進捗が不明なため「2」としてあります。 			
	新規雇用者数	—	人	52	5	2	5				
① エラブブランド向上対策販売強化事業	イベントへの参加 (PR)回数	—	回	3	2	5	9	<ul style="list-style-type: none"> 農産物の価格は変動が大きいので、安定した収入が得られるように取り組む方法を考えていく必要がある。 えらぶゆりに限定せずに、地域資源を活用した雇用創出を検討していければもっとよいと思います。 一定の評価はできると思いますが、継続期間が長くなっているため新たな取組や企画があってもいい時期ではないでしょうか？ この事業に関してはJA、農協が本腰を入れて行動する必要がある。 赤土以外の特徴や資源の検討と活用。 島外物産展の様子をCATV(サンサンテレビ)で放送したら良いのではないのでしょうか。 SNSではよく見けどTVでは見かけない気がして。 イベント参加はH31年度までに達成可能と考え「1」としてあります。 取引価格向上について実績値が0%であること、また価格向上のためにに向けた具体的な活動が不明であり「2」としてあります。 実績値がないことにより「2」としてあります。 ※具体施策③のエラブブランド向上委員会は設立済みでしょうか？ 農業、地方自治では欠かせない事業、市場の動向、ニーズなど把握し付加価値を高めた農産物の開発に取り組み、農業所得の向上に役立てたい。 【回答又は方針】 H29年度から、切花部門については県地域振興事業を活用して、えらぶ花の島リザレクション事業に、県、両町、両JA、花き専門農協が参加し、取扱いのある全ての花き品目において、PR活動や産地の問題抽出等を行っています。 本事業では観光業と連携し花狩り体験ツアーの商品化を行いました。 安定した収入が得られるように相対率を各出荷団体共に上げるように努力をしていますが、各出荷団体の規模(取扱量)が違うため、相対率向上だけでなく、規模に応じた立ち回りをしています。 エラブブランド向上委員会の設置は行っていません。 			
	取引価格向上	—	%	10	0						
	観光協会ECサイト による販売額	—	万円	100	—						
② ハブ空港を活用した海外輸出産地育成強化事業	輸出金額	—	千円	100,000	0	2	1	13	<ul style="list-style-type: none"> 生産者の方の理解を深めることが大事である。 海外への輸出は相当にしっかりした戦略がなければ難しいのではないのでしょうか。 評価難 農産物に固執せず加工品やその他の可能性を探る方向性も必要ではないか？ 海外の市場調査をしっかり行い、求められる農産品が的確に生産・出荷体制が構築できるか。 出荷組合と協議をした結果、輸出に向けた方向性は固まったのでしょうか？その進捗が不明であること、実績値0であることから「2」としてあります。 【回答又は方針】 花き部門については、H28、29年度に花き専門農協において輸出に向けた取組(バイヤーとの交渉等)を行いました、契約には至っていません。今後とも、契約に向けて商品サンプルを継続して送る計画になっています。 流通等については、国内市場を経由させた方が商品PRIに係る経費削減や代金回収業務等の軽減ができ、独自の販売ルートを確認するよりもローコスト、ローリスクであると考えられるため、専門農協では市場経由にて進めていく方針です。 生産者の理解については、現行の商品性を軸にさらに鮮度保持を高める必要があり、鮮度保持剤の試験や使用で経費が嵩むことが想定されますが、コストに見合った価格が確保できれば理解は深まると考えています。 国内市場が縮小傾向にあり、新たな販路開拓は必要ではあると考えますが、国内生産量も減少傾向にあり、海外への販路開拓は喫緊の課題ではないため、輸出に係る業務に注力できない状況にあります。 		

③ 地域資源高付加価値化事業	雇用人数	—	人	5	0	2	2	12	<ul style="list-style-type: none"> ・加工の機器や機械の老朽化 =不足(特に一般家庭でも余るジャガイモを加工して保存) ・地域資源を活用した加工品の開発は、将来の雇用創出に向けて重要だと思います。 ・評価難 加工センターの使い方の指針をはっきりした方がいいように思う。現行のように婦人の方々が趣味の延長上で加工品を作るのか、加工品の開発販売をビジネスとしてとらえるのかの確認。それで運営の仕方は大きく違うと思う。 ・農産物加工センターが有効活用できているか。啓発活動の強化が必要。島に自生する植物等の利用法の検討。 ※加工品としての開発進捗、食品メーカーや量販店への販売交渉の進捗が不明であること、またそれぞれの実績値が0であることより「2」としてあります。 ・利用者が販売目的の商品開発意識を高く持って加工センターを活用すると同時に、商品開発に特化した技術指導など専門知識のある講師などの実務講習開催を開いてはどうか。 ・徳之島では農産物を食品メーカーや製菓会社と契約して、開発販売につなげている。土産店では加工品も多く、パッケージも洗練されているので、一度視察に訪れてほしい。 ・生活改善グループ等の組織力の低下も進展しない要因ではないだろうか。 ・6次産業化の推進、農商の連携の推進で農産物の加工品づくりを開発する。 ・地域資源(サトイモ等)を加工開発して付加価値を高め、販路拡大や農家の所得向上を目指すにあたって、農産物加工品の開発体制の確率及び人材確保など課題が多く、前向きな見直しが必要と考える。 <p>【回答又は方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、生活研究グループを中心に、パレイショを使った加工品の製造販売に向けた試作を行っている。これまでは、試作をするものの、それ以降の展開がなかった。平成30年度は試作品を町内施設等で実際に使ってもらい、製造販売につなげたい。 ・生活研究グループについては、菓子製造等の経験のある新規入会者があり、今後の商品開発の進展が期待できる。 ・利用者の中には、営業許可を取得し積極的に加工センターを活用している方もいる。 ・加工センターの運営指針については、商品の製造販売の進捗によっては検討が必要と考える。
	販売金額	—	千円	30,000	0				
④ 南国野菜産地育成総合支援事業	新規品目数	—	品目	3	0	2	6	7	<ul style="list-style-type: none"> ・有効でないとは思いますが、新規就農においては地元との強い繋がりが長く継続していくのに重要であると思うので、そこを支援できる事業になればよりいいと考えます。 ・評価難 新規品目『ズッキーニ』をまず流通に乗せたのは評価できる。市場流通と市場外流通のバランスや売り方を戦略的に行っていきたい。可能性は大いにあると思います。 ・輸送機関を考慮した保存の効く作物の検討。 ・新規就農のためには思い切ったサポート体制が必要だと思う。「そこまでしないで」というくらいのサポートが必要。 ・「新品目へ取り組む農家」はH31年度までに達成可能と考え「1」としてあります。 ・新規就農のための移住実績がないこと、そのためのPR活動等の具体的な活動が不明であり「2」としてあります。
	定住者	—	人	10	0				
⑤ 防風対策強化サポート事業	防風林帯の設置	—	地区	10	0	2	2	12	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的に何をするのが分かりにくい。 ・評価難 ・意識が低いのは島人ならではの。他離島との比較とかしたらよいのかな? ・救急体制等は整っているようですが、実際の実績値が0であることから「2」としてあります。 ※防風林アドバイザー設置済みでしょうか?農家の防風林に対する意識の向上はどのように進めて行くのでしょうか? ・防風林の有効性は理解しているが、管理作業にまで手が回らないほど多忙な様子。 ・異常気象が当たり前となっている昨今、想定外の大型台風の影響等も視野に入れて周囲を海に囲まれているので、潮風に強い樹木の植栽で、防風防潮林帯の設置は不可欠だと思う。 ・防風防潮林帯が奄美らしい景観づくりを担うようになれば素晴らしい。 ・50年先、100年先も防風・防潮の役目を果たし、美しい景観につながればいいと思う。 <p>【回答又は方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理想としては、地域にあった樹種を統一して、一帯に植栽できれば防風効果の向上や景観的にも素晴らしいものになるが、個人の好みも違うため推進が難しい。その中でも、樹種の選定の参考となるように実験農場に防風林の展示ほ場を設置している。 ・まずは、島にある良い防風林帯を参考にする。 ・未設置である。
⑥ 民間交流ステップアップ支援事業	研修生	—	人	5	0	—	—	—	—
⑦ 産地強化サポート事業	土壌診断数	831	%	1,200	1,279	1	13	1	<ul style="list-style-type: none"> ・実績が上がっているのが有効であったと思います。 ・評価難 ・地道な指導や勉強会が必要なのかなと思う。 ・取り組む人はしっかりサポートして、実績を出させて上の世代に刷り込む。 ・実績値が達成していることから「1」としてあります。 ・現状の進捗率からH31年度までに達成可能と考え「1」としてあります。
	管理作業受託面積	—	ha	200	122				

⑥ 陸上養殖開拓事業	島外からの移住者	—	%	10	0	2	2	12	<ul style="list-style-type: none"> ・実績が上がるまでに時間のかかる事業であると考えるので、継続していく必要があると考えます。 ・必要事業であり、もっと力を入れるべき。 ・早期に、夢のある具体的な計画の公表 ・周辺海域の品質分析は実施済みですが、KPI評価としている「島外からの移住者」「新規雇用」の実績値が0であることから「2」としてあります。 【回答又は方針】 <ul style="list-style-type: none"> ・H29年度に事業採択に向けて、理研食品㈱と事務手続きを進めていましたが、最終のプレゼン審査で不採用となりました。今後も事業の採択に向けて情報収集をします。
	新規雇用(パート)	—	%	10	0				
⑨ 起業チャレンジ支援事業	起業数	—	事業者	3	0	2	3	11	<ul style="list-style-type: none"> ・起業の予定者の見込みが出てきている。 ・すぐには結果は出ないと思います。フレキシブルに変化しながら継続させてほしい。 ・気軽に相談できる環境の整備と様々な取組案の紹介 ・意欲のある若者事業者は多いと思うので、そこへのサポートが重要。 ・支援セミナーは開催されているようですが、KPI評価としている「起業数」の実績値が0であることから「2」としてあります。 【回答又は方針】 <ul style="list-style-type: none"> ・若者のチャレンジする機運は高まってきていると感じるので、起業セミナーの開催や事業計画策定のサポート、各種補助金や融資制度等の周知を行い支援して参りたい。 ・起業・創業に向けて事業計画策定中の方が2名おり、商工会と連携し支援して参りたい。
⑩ 建設事業人材育成推進事業	新規雇用者数	—	人	20	0	2	2	13	<ul style="list-style-type: none"> ・建設業において石積み雇用確保に繋がるのかの関係性が分からない。 ・すぐ可能性のある取組だと思えます。ハード面でここ数年で建設業界の仕事が激減するとよく聞きます。開発する公共事業でなく、開発したものを戻す(復元?語弊があるが)公共事業の実施に期待します。 ・石積み工事発注数がないのは、所有者の意識が低いことと、できる業者がいることを知らないからあきらめているのでは? ・「モデル事業の作成・周知」の進捗度合いが不明であること、KPI評価としている「新規雇用者数」「新規資格取得者数」の実績値が0であることから「2」としてあります。 ・H28年度に建設業者等によるワークショップから現状と課題を分析して、H29年度建設従業者を対象に講習会を開催し、技術力の向上を図っているが、講習内容等からすぐに新規雇用の繋がるとは考えにくい。 【回答又は方針】 <ul style="list-style-type: none"> ・以前は新規雇用者を増やす目的で事業を進めてきましたが、建設業者等によるワークショップへの参加人数が少なく新規雇用者を増やすための話し合いができませんでした。ワークショップで現状と課題を分析して、島内には石積み技術者がいないので、仕事の幅を広げるのを目的とし、建設業者を対象に石積み講習会を開き技術の向上を図りました。
	新規資格取得者数	—	人	10	0				
⑪ 地域資源活用推進事業	販売量	—	袋	100	12	2	6	7	<ul style="list-style-type: none"> ・実績が出てきているようなので継続していった方がいいと考えます。 ・取組的には悪くないと思います。 ・内装の塗装には公共施設(新庁舎)から利用していき、促進するべきである。 ・H30年度の実績値を加味し、H31年度までに達成可能と考え「1」としてあります。 ・新商品開発に対する取組度合いが不明であることから「2」としてあります。 ・エコ石灰商品の試験モデル住宅として無料提供で使用してもらい、内外装での適正、不適正、住環境の良し悪しなどのデータを取得することで、更なる商品開発に繋がるのでは。新和泊庁舎の建設現場に於いて試験ルーム的な一室を設けてみては。 ・エコ石灰以外を早めに検討してほしい。
	新商品開発数	—	製品	1	0				
⑬ 観光客受入体制整備事業	入込客数	81,334	人	100,000	88,958	1	14	1	<ul style="list-style-type: none"> ・様々なプラスの要因が重なって効果が出ていると思います。 ・ハード面だけでなく、宿泊業者等の接遇研修などの人材育成が必要では。 ・公共事業の減少で稼働率が下がるのは目に見えている。 ↓ ・多少の旅行者へのキャパは増えることになるのでその他の事業とからめても稼働率を上げていければ。 ・いずれの指標も、現状の実績値からしてH31年度までに達成可能と考え「1」としてあります。 ※課題に記載されている「金融機関からの融資が厳しい」との意見については、新設・増設にも資金対応済みであり、誤解があるように思います。 ・宿泊施設や観光地、空港や港の待合所等に意見箱を設置すると良いと思う。 ・観光客への配慮が不十分だと思う。 【回答又は方針】 <ul style="list-style-type: none"> ・観光客からしても、事前に宿泊施設の中がどのようになっているのか知りたいという声があり、観光客に情報を提供するのホスピタリティであると考え。町ではGoogleと連携して観光協会と商工会向けに情報発信の研修会を実施したところだが、360度カメラを貸与出来るようにし、情報発信をし易い環境を整える。 ・施設の新設・増設の際には奄美群島振興開発促進条例の固定資産税の免除や和泊町商工業振興資金を利用した利子補給による支援を行っている。 ・おきのえらぶ島観光協会・宿泊施設・飲食店等にヒアリングしたところ、観光客の増加を実感しているとの声を聞いた。 ・観光客の心理として、ここでしか食べられないモノを求めているのに、取扱いが分かる目印が著しく乏しく、もったいない。のぼり等でわかるようにした方がよい。 ・観光客の体験型メニューが少ない。 ・Wi-Fiスポットが少ないので、観光客や外国人の利便性が悪いので、増やす必要がある。
	雇用者数(延べ)	—	人	5	4				
	宿泊施設数	—	施設	20	13				

⑭ ICT利活用推進事業	雇用者数	—	人	1	0	2	4	10	<ul style="list-style-type: none"> ・子供達の教育環境の充実はこれからの島の未来に繋がることなので継続していった方がいいと考えます。 ・活用できる地域資源とは、具体的に把握できているか。 ・よくCMでも地方自治体と大手IT企業とのコラボで単なる学習交流だけでなく、新しい形での学習をすることで注目を集めるのではないのでしょうか。 ・具体的施策に掲げている「インターネット電話サービス」や「英語コミュニケーション能力の向上」についての進捗が不明なこと、KPI評価の実績値が0であることから「2」としてあります。 ・ICTに優れた人材の雇用を急ぐべき。 <p>【回答又は方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新庁舎完成後、空き庁舎を活用しサテライトオフィス、コワーキングスペース等での活用を検討する。(企画課) ・ICTの利活用については、プログラミング教育や情報教育、情報モラル教育等の観点からも重要である。今後、各学校のICT機器活用のニーズや教育課程の内容の工夫改善と大手IT企業のコラボレーションとの調整が必要になってくる。(教委) ※サテライトオフィス・・・本部から離れた所に設置されたオフィス コワーキングスペース・・・各業種、年齢の人々が集まり、仕事をしたり、ノウハウやアイデアを共有し、協働する場所 プログラミング教育・・・コンピューターに動きを指示するために使われるプログラムを学ぶ教育
	交流学習回数	3(島内)	回	12(島内外)	2(島内)				
	授業支援回数	—	回	3/年以上	0				
⑮ 医療・介護マンパワー育成事業	研修会開催数	0	回	10	3	2	6	9	<ul style="list-style-type: none"> ・医療等の充実は今から先、人口を確保していくうえで絶対的に必要なことなので継続して、サービス向上の確保をしていくべきだと考えます。 ・人口減少が進み、超高齢社会、核家族化現象が起きる2025年問題も抱える中、その担い手確保は困難と思う。この課題の解決は町民に現状を周知して意識を変え、老若男女が支え合う地域をつくる。 ・民間業者の活用など、財源の確保頼みでは、難しい。 ・なぜ更新した人がいなかったのでしょうか？研修会と受講している人はいるのに。 ・KPIの達成率は現状高いとは言えないものの、目標値達成に向けた活動実施や効果が見られることから「1」としてあります。 <p>【回答又は方針】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①地域ケア会議や生活支援体制整備事業等を活用し、地域の課題抽出や解決に向けて、関係機関と連携して地域包括ケアシステムの構築を目指します。また、町民に対し介護予防サポーター養成講座を開催し研修を修了した者に対し、住民主体で行う集まりの場の提供や生活支援等の支援が行えるよう取り組んでいきます。 ②知名町と協同して、本町だけでなく沖永良部島としての取組を行っていく必要があると考えている。平成29年2月に沖永良部島全事業所に対し、人材・人員に対する調査を行い、翌年度には事業者の代表者に集まって頂き、事業所がどのように考えているか意見聴取を行った。今後どのような体制を作り、町としてどのような支援ができるか、事業所及び関係機関と協同して取組を行っていく。 ③更新者は介護支援専門員の資格更新についてであり、5年毎の更新となっている。現状は各事業所又は資格者本人が更新を行っているところであり、更新者は数名いることと考えられる。今回事業として補助等を実施していないため、0人としている。
	養成者数	0	人	100	20				
	更新者数	0	人	20	0				

基本的方向	本事業における重要業績評価指標 (KPI)				実績・評価		1 あ つ た 有 効 で	2 か つ た 有 効 で な	外部審議会からの意見		
	基本目標及び施策	指標	基準値 (26)	単位	目標値 (H31)	実績値 (29)				事業評価	
										1 有効であった	2 有効でなかった
2 地方への新しいひとの流れをつくる(ひとの流れ)											
【基本目標】 国内外からの交流人口の増加を目指します。	島内入込客数	81,334	人	10万	88,958	1	11	0	<ul style="list-style-type: none"> 様々なプラスの要因が重なって効果がでていていると思います。 移住者が定住に至っているかの追跡調査しっかりやるべきである。 20代のUターン者の増加との記載がある。この取組の正当性の表れ。 西郷どんの流れで人を呼び込んで、その他の自然、体験事業や人とのつながりを体験してもらい、リピーター、かつ口コミでの広がりをその流れを作ることができればこの先も展望は明るいと思う。 島内入込客数は順調に増加傾向にあることから「1」としてあります。 移住についても各施策の効果が出ており目標値を達成していることから「1」としてあります。 		
	移住者数	75	人	100	148	1	11	0			
① 移住・定住等総合窓口支援事業	雇用者数(延べ)	—	人	1	1				<ul style="list-style-type: none"> 定期的な情報発信によって効果は出てきていると思います。 くらすわどまりや空き家バンクの支援サイトの掲載数と閲覧数が増加しているのは素晴らしい。(自分でも家を探しているUターン者の話をよく聞くので必ず進めている。) 具体的施策の効果が実績値にも反映していると思われ「1」としてあります。 危険廃屋は景観も損ねることからしてしっかりと取り組んで頂きたい。移住支援サイト「くらすわどまり」「ねりやかなやレジデンス」の検索数の上昇もあってこれから期待もそう。 町内の空き家が多いのには驚きますが、商店街の空き店舗も目立ちます。これもインターネットで情報発信できないでしようか。 【回答又は方針】 移住者の定住率については、しま暮らし体験住宅に入居した方の定住率では約7～8割が定住に至っている。 移住相談件数や「くらすわどまり」の閲覧数も増えているので移住を希望する方は増えていると思うが、すぐに移住を判断するのではなく、しま暮らし体験住宅等を活用したお試し暮らしを推進し、移住後のギャップ解消に努めたい。 危険廃屋の除去については、町内の危険廃屋を把握し、引き続き国の交付金を活用して実施していきたい。 空き家だけでなく空き店舗についても「くらすわどまり」で情報発信しているが、掲載件数が少ないので、商工会と協力して所有者情報を把握し、制度周知に努めたい。 		
	危険廃屋除却支援数	—	戸	5	6	1	15	0			
	空き家改修支援戸数	—	戸	10	6						
	移住者数	75	人	100	148						
② Uターン就職支援事業	Uターン者	—	人	5	0	2	4	11	<ul style="list-style-type: none"> 島で生まれ育った愛着のある人達が増えるのは絶対に必要なので施策を打っていくべきだと思います。 長男は家業を引き継ぐという先人たちの教を家庭及び学校で教える。 親の世話をするためのUターン者には特例の配慮を上げる。 人材不足の業種の把握と資格や技術取得支援の検討。 まだ結果の出にくい事業。今後のUターン者への就職支援を活かして改善されることを望む。 検証結果からすると奨学金事業は見送りということでしょうか？改善策が「実績確認」とはどういうことでしょうか？今後の施策が不透明であり、実績値0であることから「2」としてあります。 不要な事業だと思う。 【回答又は方針】 財政負担や償還中の奨学生との不平等の問題、生活困窮世帯の教育支援という奨学制度が本来どうあるべきかなど多くの課題があり、さらなる情報収集に努めながら検討を深める。 		
④ 沖永良部島観光イノベーション連携事業	鹿児島ー沖永良部間航空機利用者増加数	—	人	13,000	4,313				<ul style="list-style-type: none"> 沖永良部へ来島する人が増加している今こそ島を好きになってもらう様々な施策が必要だと思います。 継続可能な商品と受入体制の整備。 この事業だけでなく、他の基本方向の事業が絡み合っている結果になると思うので今後も増大を望む。 観光においては観光協会を中心に事業の推進を図り、その効果が出てきていると思われ、いずれの指標とも「1」としてあります。 進学、就職のために島を離れたおおよそ40歳くらいまでの若者を準島民として登録し、奄振交付金事業を活用した航空運賃軽減を準島民にも適用できれば若者が都会と島を往来しやすくなる。さらに島の良さを再確認して、定住につながることも考えられる。 【回答又は方針】 おきのえらぶ島観光協会が、ふるさと納税の事務受託事業を実施してみても面白いかもしれない。観光協会HPは、4万ビュー(月)の閲覧があり、効果が高く、自主財源の獲得や雇用にもつながると思う。 		
	鹿児島ー沖永良部間航空機利用者数	77,013	人	100,000	81,330	1	14	0			
⑤ えらぶゆりPR推進事業	えらぶゆり地域活性化プラン達成度	—	%	100	44	1	13	2	<ul style="list-style-type: none"> 昔から住んでいる方は「えらぶゆり」を推す方が多いが、それが島外へのPRIに繋がっているか一度検証してみてもいいのではないだろうか。 改善策と同じ 「えらぶゆり地域活性化プラン」とは何でしょうか？実績も出ておりH31年度での達成も期待できることから「1」としてあります。 		

⑥ 島の宝磨き事業	沖縄等からの入込客数	14,000	人	18,000	14,745	1	14	1	<ul style="list-style-type: none"> ・観光客を呼び寄せているが、おもてなしの心が島民から見られない。 ・観光案内の工夫が必要 ・沖縄からの直行便が就航し、ケイビングや大河ドラマの効果で入込客数は増えている。この機会にリピーターを獲得できれば、尚よいと思います。 ・大河ドラマ景気を持続している地域の取組等の把握。 ・体験観光ガイドはできる人に依頼することから、新しい人の養成につながると思う。 ・西郷どんブームを少しでも引っ張られるようにできたらいいと思う。 ・島民との交流の場を気軽に取れる空間・場所が必要？ ・出荷場の休憩スペースとか調度よいのでは？ ・いずれのKPIも実績が出ており、未達分もH31年度には達成可能と思われる「1」としてあります。ただ、具体的施策の中に「新たな観光資源の開発」とありますが、どこまで進んでいるのでしょうか？ ・「西郷」どん効果もありオキエラブのTV放映での知名度も上がり、更に入込客数が見込まれると思う。来島者に良い印象で帰っていただくため、ゴミ・空き缶のポイ捨て・農業ゴミなどの無いエラブ島、癒しの島でありたい。 ・観光客と交流したい島民は多くいると思う。きっかけとなる場づくりを考えてもらいたい。
	歴史関連施設来館者数	4,225	人	3,000	6,298				
	ツアーガイド利用者数	—	人	4,500	4,064				
⑦ 民泊推進・古民家ステイ体験事業	研修参加者数	—	人	10	0	1	10	3	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家対策や定住者促進の策として色々と継続していった方がいいと考えます。 ・民泊の醍醐味は、宿主である島人とのつながり。 ・事業者にも一番リピーターが増えるにはこのつながりを深めることが大事なので周知することが大事。少しずつでも他の人たちを巻き込んでいくこと。 ・みーやの稼働率を上げて、この素晴らしい空間を知ってもらいたい。 ・どのような研修に、誰が参加するのか不明であり、まだ参加者数も0であるため「2」としてあります。 ・民泊対応戸数目標達ししており「1」としてあります。 ・検証結果に「地域おこし協力隊の支援と町の助成金を活用し、今後古民家ステイが可能な環境を整備していく」とありますが、これまでの活動が不透明であること、実績値0であるため「2」としてあります。 ・受入人数に寄与した事業としての活動実績が不明であること、達成率が低調であることから「2」としてあります。 ・まだまだ伸びしろあると思う。
	民泊対応戸数	—	戸	2	3				
	古民家ステイ物件数	—	件	3	0				
	受入人数	—	人	300	42				
⑧ 島の宿×学生インターンシップ支援事業	学生受入数	40	人	100	44	1	15	0	<ul style="list-style-type: none"> ・島での経験が島外へのPRIに繋がっていると思います。 ・更なる取組に期待する。より多くの住民との交流の場の確保。 ・受入人数に制限はあってもいいと思う。でもまだそういう人ができることを知らない人も多い。 ・達成状況は44%ですが、東京の人材会社と連携するなど地道な活動の成果と思われる「1」としてあります。目標達成のためには受入人数制限の50名を拡大する必要がありそうですので、是非取り組んでいただきたいと思っています。
⑨ 沖縄等交流拡大事業	入込客数(沖縄)	14,000	人	18,000	14,745	1	15	0	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄との交流は鹿児島との交流より効果が出ているのではないかと思います。 ・駅伝や大会等がないと続かない流れでは意味がないので浸透させて、自然と人が来るようにできたらいいと思う。 ・沖縄を主体に各種イベントと通じて人口交流を図っており、その効果が出ていると思われ、いずれも「1」としてあります。
	入込客数(全体)	82,696	人	100,000	88,958				
⑩ アイランド・ネイチャースクール事業	参加者	—	人	500	172	1	13	2	<ul style="list-style-type: none"> ・観光地らしくない沖永良部島の体験が出来るメニューは非常に重要だと思います。 ・ガイド不足は深刻。協会のSNSでもアクセサリ作成体験はやっているみたいだけど、ほかはあまり聞かない。(島の人も体験してもらったら良いかも) ・観光協会が旅行会社と連携し、各種体験型ツアーを充実させ実績につながっていると思われ、いずれも「1」としてあります。 ・事業内容として素晴らしいと思うが、まず島の子どもたちにもぜひ体験させてほしい。子どもの頃にこのような体験をすると、島を好きになり、島を誇りに思う気持ちが培われる。
	ネイチャースクールガイド数	—	人	1	1				

⑪ おきのえらぶ島DMO化事業	島内入込客数	87,121(H27)	人	100,000	88,958	1	14	0	<ul style="list-style-type: none"> ・観光協会が進めている事業は非常に効果が出ている様に思います。協会と一緒に島内で一丸となっていけば、沖縄永良部島の良さはもっと知られていくと思います。 ・まだ判断が難しい。 ・計画実行に向けた観光協会の活動の効果が実績に現れていると思われること、まだ達成状況の進捗率よりいずれも「1」としてあります。
	HP閲覧数(月)	60,031(H27)	回	100,000	65,180				
	事業収入	8149	千円	10,000	7,806				
⑫ えらぶ滞在型ヘルスツーリズム事業	沖縄からの入込客数	14000	人	18000	14745	1	13	<ul style="list-style-type: none"> ・目標数値を上回っているものや、近いものが多く有効であったと考えます。 ・課題や問題点をしっかり議論し、具体策を講じるべき。 ・泳ぐことに関してはメリットを感じる親が少ないのかも。 ・海で泳ぐことと、競泳は全く違う。スイミングスクールに通っている子(内地)と比べたら歴然！島外のスクールの子を呼んで交流会とか良いのでは？ ・国小は別格。あそこですと基礎体力も上がるのは当然。全てのスポーツに良好。 ・ヘルスツーリズム参加者数実績0であるため「2」としてあります。 ・「メタボの該当者及び予備軍の割合」では目標値40%に対して実績値が46.5%ということは悪化状態が続いているということであり、達成率116.3%はおかしいと思います。基準値よりも悪化傾向にあり「2」としてあります。 ・「タラソ利用者数」は目標値を達成しており「1」としてあります。 ・「スポーツジム利用者数」はH31年度までには達成可能と思われ「1」としてあります。 ※タラソスポーツジムの年間料金について・・・年間での料金となっているため、4月に入会(12か月利用可能)しても3月に入会(1か月利用可能)料金が変わらなければ後半の加入者が増えないのは当然と考えます。(月割に変更するとか・・・) ・町民の健康意識は少しずつ高まってきていると思うが、各団体とも連携して健康教室を開催し、継続して推進する必要があると思う。 ・移住者にタラソ割引制度を設け、癒しと健康につながることを知ってもらいたい。 <p>【回答又は方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タラソスポーツジムの会費は、H30年度から元気わざりからタラソに運営が移管され、月割も追加されている。 	
	メタボの該当者及び予備軍の割合	42.3	%	40.0	46.5				
	タラソ利用者数	47,772	人	50,000	54,207				
	スポーツジム利用者数	15,300	人	17,000	12,010				

基本的方向	本事業における重要業績評価指標 (KPI)				実績・評価		1 あ つ た 有 効 で	2 か っ た 有 効 で な	外部審議会からの意見		
	基本目標及び施策	指標	基準値 (26)	単位	目標値 (H31)	実績値 (29)				事業評価	
										1 有効であった	2 有効でなかった
3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる(結婚・子育て・出産)											
【基本目標】 安心・夢・ゆとりのある子育て環境づくりを目指します。	合計特殊出生率	2.00	—	2.39	2.24	1	10	1	<ul style="list-style-type: none"> 少子化対策は目標に掲げているが、出産者への環境は整っておらず、苦勞・工夫しているようである。(個人で) 島の未来を考えるうえで重要な事業であると思います。 若者は結婚するための努力が足りないと言われたことがある。 結婚したいと思える環境とは？ 達成率は82.4%であるものの、これまでの取組内容が不明であり、基準値より悪化していることから「2」としてあります。 出生、子育てと経済的負担(教育費)は並行して考える中で、将来の教育費負担で不安なことを透明化していくことが必要だと考えます。島の場合は、高等学校の存続は重要課題であり、存続なしに人口減少・出生率増加・若者定住は見込めないと思います。将来的な当面の生徒数は分かっているので、早期に施策を打ち出して教育環境を整えてほしい。 【回答又は方針】 今後の生徒数の動向や小・中学校の児童生徒数の推移を把握しながら、検討を進めていく。 沖永良部高校による中学生の体験学習や生徒会リーダー研修会など両町の中学校との連携を図った取組により、高校の魅力や地元高校への進学へのメリット等を進路指導にも生かしている。 		
① 若者等ふれあい事業	イベント参加者数	—	人	20	0	2	6	9	<ul style="list-style-type: none"> 島内の人々はほとんど顔見知りということもあり、交流イベントはあまり有効でないと感じます。 特に男性で適齢期が来たら嫁をもらい、自分の子孫を残す責任感の欠如。 H29年度実施はしたが、30年9月23日実施予定1件あり。相談します。 H31年度までのイベント参加数がそもそも20名で良いのか疑問です。(年間換算すると5名?)ただし、100%達成しており、「1」としてあります。 		
② 子育て応援事業	利用数(家族数)	—	組	15	7	1	11	3	<ul style="list-style-type: none"> 子育てを支援する環境作りは重要であると思います。 期待値 地域の人の協力が不可欠。子育て支援センタースタッフだけでできるのか？ 利用数(家族数)の達成率は46.7%ですが、H31年度までに達成可能と考え「1」としてあります。 実施箇所の目標達成しており「1」としてあります。 【回答又は方針】 子育て支援センタースタッフだけでは足りない状況であり、地域住民の協力が必要である。スペースだけでは利用者がなく、管理人がいれば利用が増えると思われる。 ※H29子育て支援センター利用者数 小人2,179人、大人1,462人(利用者の半数は転勤、結婚による島外出身者) 		
	実施箇所	—	箇所	1	1						
③ 人材養成支援事業	有資格者数	0	人	4	0	1	8	5	<ul style="list-style-type: none"> 人口を確保していくうえで出産の環境を整えることは重要。特に妊婦に寄り添って支援してくれる産婦人科医は必要。 初産前の人やまだ出産していない人へ、出産についての不安や相談等のアンケート。 出産後の気持ちや前者へのアドバイスとかと意見交換できる場があると良いのでは？ 実績値が0であること、「学生のニーズ調査」がなぜできなかったのかが不明であることにより「2」としてあります。 達成率83.3%となっていますが、基準値以下であり「2」としてあります。 【回答又は方針】 婚姻届時に母子保健についてのちらしを窓口配布する。 内容:健康な身体づくりのために、妊娠が疑われた時又は確定した時の対処法、受診できる医療機関、母子手帳の発行窓口(保健センター)、不妊治療等についての相談 現在、両親学級を年8回(前期4・後期4)開催しており、その中のプレイクタイムに経産婦との意見交換会を導入する。 受講者に経産婦がいたらその先輩の話を伺い、いない場合は出産後1年以内の産婦に意見交換会に参加してもらおう。 中学2年や高校2年への希望職種調査等を今後検討する。 		
	出生数	57	人	60	50						

※すぐ成果が現れる事業と継続が必要なものがあると考えられる。町民は応援・参加していきたいと考えておりますので、さらに活躍されることを祈念いたします。

4 時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに地域と地域の連携を図る

【基本目標】 町民みんなが健康で、安心安全、自立した地域づくりを目指します。	人口減少率を抑える	—	—	4.3%以下	3.8	1	9	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ほぼ目標を達成できており、有効であったと思います。 ・島の人は他人事と思う人が多い。(健康面や悪いこと(災害・事故等)) ・身近な体験者にエピソードを語ってもらう場があっても良いかも。 ・人口減少率の達成率100%超であり「1」としてあります。 ・40～60歳代男性における肥満割合が基準値以下であること、既存の達成率からしてH31年度までに達成可能と思われ「1」としてあります。 ・40～60歳代女性における肥満割合が基準値以下であること、既に100%達成済みであることにより「1」としてあります。
	40～60歳代男性における肥満割合	49.7%	%	46%以下	46.3	1			
	40～60歳代女性における肥満割合	37.1%	%	35%以下	28.4	1			
① あざ・まち元気活動事業	活動団体数	4	団体	14	12	1	15	0	<ul style="list-style-type: none"> ・いい施策だが、広報と応募者へのフォローがもう少し必要だと思えます。 ・まちづくり協力隊と併せて集落のリーダー育成が必要。 ・実施団体の定期的な報告会や交流の促進 ・根折の活動は、申請すれば誰でも利用できるため、利用促進し、知ってもらうことはできる。 ・目標値14団体に対し実績値12団体であれば達成状況は85.7%ではないでしょうか？H31年度までに達成可能と思われ「1」としてあります。
③ 障がいのある住民元気プロジェクト事業	施設利用者数	23	人	40	29	1	13	1	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単にはいかないと思いますが、継続していくことが重要だと思います。 ・新たな取組に関する協議の場や指導者の確保 ・「具体的施策」の「雇用の場確保」「地域交流との情報発信」「特産品の開発・販売と地域活性化への貢献」に対して「KPI」がなぜ「施設利用者数」なのでしょう？H31年度までには目標達成可能と思われ「1」としてあります。
④ 癒して健康づくり事業	標準化死亡比	113.2		100	—	1	11	3	<ul style="list-style-type: none"> ・健康づくりは重要である。 ・自分だけど島の人は自分が極度に陥らないと改善につながらないのが弱み。 ・標準化死亡比の実績値が不明であり判定し兼ねます。 ・特定保健指導実施率の達成率が75%であり、基準値を下回っていることから、平成31年度までに達成可能と思われ「1」としてあります。 ・健診結果で指摘されても本気で改善しようとする健康意識を持った人は少ないように思う。健康意識を高めさせることが大事だと思う。
	特定保健指導実施率	40.9	%	60	45.1				
⑤ 元気！わどまりクラブ育成事業	クラブ会員数	945	人	1,000	782	1	14	1	<ul style="list-style-type: none"> ・実績も上がってきているので継続していった方がよいと思います。 ・指導者の負担は大きいと思う。がトレーニングは海洋企画に移管したので、より自由なアイデアで集客を見込む。 ・若者も利用している人から、又は人同士で声を掛け合って呼び込むのも重要かと。 ・クラブ会員数の達成率は78.2%であるものの、基準値を大幅に下回っており「2」としてあります。 ・わらんちゃクラブ参加者数(延べ)達成率は54.1%であるものの、基準値を大幅に下回っており「2」としてあります。 ・有資格指導者数の達成率は66.7%であるものの、H31年度までには達成可能と思われ「1」としてあります。 ・トレーニングジム利用者数の達成率は67.8%であるものの、基準値を大幅に下回っており「2」としてあります。 ・会員と一般人とで誰もが楽しくできるスポーツイベントの回数を少し増やして、一般人に会員入会を勧める。
	わらんちゃクラブ参加者数(延べ)	4,143	人	4,516	2,434				
	有資格指導者数	1	人	3	2				
	トレーニングジム利用者数	15,300	人	17,000	11,530				
⑥ 環境にやさしい循環型エコのまちづくり事業	堆肥生産量	—	t/年	100	0	2	1	13	<ul style="list-style-type: none"> ・取組の内容がよく分からない。 ・もっと町民意識の向上を目指すべきだと思います。 ・自然エネルギー利用とは、太陽光エネルギーのみ？それとも他に利用してる自宅などがあるのですか？ ・「堆肥生産」に対する取組内容、取組進捗が不明であり「2」としてあります。 ・「自然エネルギーの活用・研究・実施・利用促進」に対する取組内容、取組進捗が不明であり「2」としてあります。 ・この事業は町民それぞれが最も取り組みやすいことだと思うが、町民に浸透していない。自然エネルギーについても一時話題になったが、今は話題にも上がらない。町民へ広く呼びかけを。 【回答又は方針】 ・自然エネルギーの活用を研究・実証するとは、両町でし尿処理施設の整備に向けてバイオマス施設の調査等を計画していたが、知名町がし尿の前処理施設を整備することになったため、本町では下水処理施設に接続する施設を整備する方針となり、バイオマス施設の整備は必要なくなった。 ※バイオマス・・・生物資源(バイオ)の量(マス)を表す概念で、再生可能な生物由来の有機性資源で化石資源を除いたもの
	自然エネルギーを活用した世帯数	—	世帯	10	0				
⑧ 地域おこし協力隊事業	活動支援団体数	4	団体	14	12	1	14	1	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に活動されていると感じます。 ・活躍素晴らしい。今後活動を望む。 ・具体的な活動内容が実施され成果が出ており、H31年度までに目標達成可能と思われ「1」としてあります。 ・これからの活動にも期待。 ・今後も期待する事業です。